

## 子宮内膜の厚さと妊娠率

こんにちは。だいぶ過ごしやすい気候となってきましたが、みなさんは如何お過ごしでしょうか？

今号の大泉 News Paper では、子宮内膜についての2本の論文をご紹介します。

すでに体外受精をされている方も、そうでない方も、内膜の厚さは気になるころだと思います。我々もそうです。暑さもやわらいできたところで、最近の論文から、内膜の厚さについての考察をご紹介します。

まずは、

Fertility and Sterility

Volume 100, Issue 5, Pages 1289-1295.e2, November 2013

Thin endometrium in donor oocyte recipients: enigma or obstacle for implantation?

をご紹介します。

タイトルの意味するところは 提供卵を用いた胚移植で内膜が薄かったら：謎なのか？ 着床の障害となるのか？ です。

提供卵を用いた胚移植において、内膜の厚さと妊娠率および生児出生率を比べた論文です。

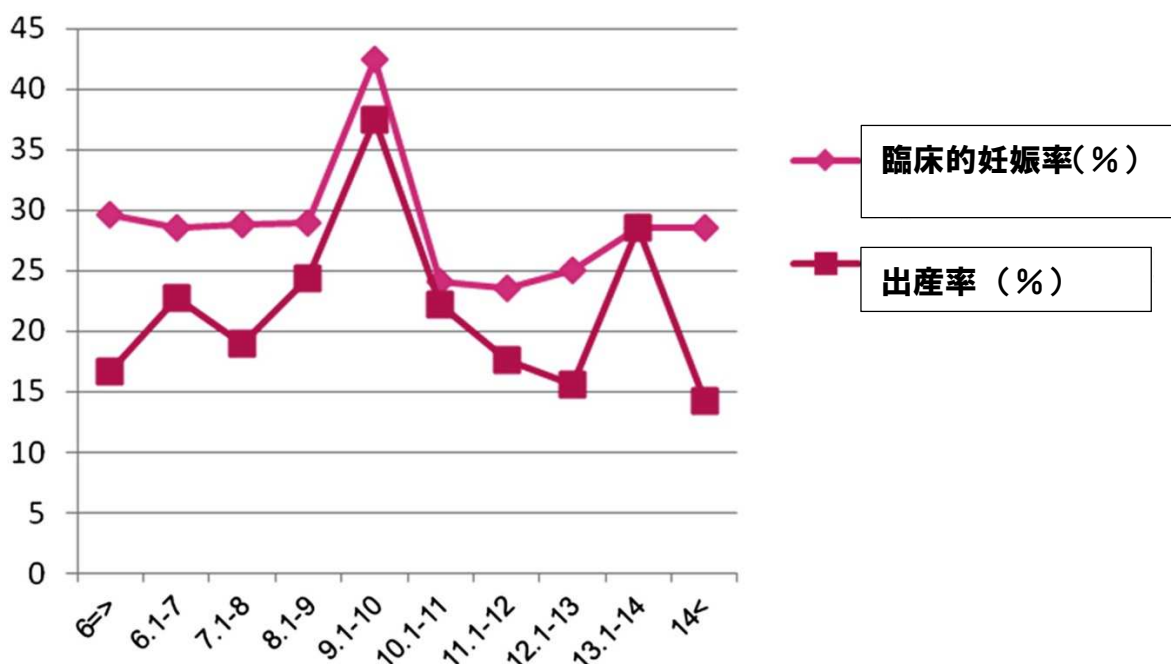
提供卵を用いた胚移植の場合、胚の質は保証されていますので、妊娠の成立の有無は、移植を受ける患者さんの状態にかかってくるといえます。卵子の提供者は23歳から30歳でした。737周期の胚移植が行われました。患者さんの年齢は25歳から56歳でした。

そこで、患者さんの内膜の厚さと妊娠について分析してみたわけです。

**結果として、子宮内膜の厚さを6mmあるいは8.2mmを区切りとして考え、それ以上とそれ以下で比較して、妊娠率および生児出生率に統計学的有意差がなかった（=違いがあると結論をだすことができなかった）というものでした。**

また、さらに細かいグループに分類したところ、最も高い妊娠率・生児出生率を記録したのは、内膜が9.1-10mmのグループでした（下図）。

ちなみに、妊娠した患者さんのなかで最も内膜の薄かった患者さんは4.9mm、生児を得た患者さんは5.3mmでした。



続いての論文は、

Fertility and Sterility

Volume 100, Issue 6, Pages 1610–1614.e1, December 2013

Thin endometrial stripe does not affect likelihood of achieving pregnancy in clomiphene citrate/intrauterine insemination cycles

です。クロミフェン (=セロフェン) 使用+人工授精において、子宮内膜の厚さは妊娠率に影響しない という論文です。

月経周期の3-7日目までクロミフェンを投与して(25-150mg/日)排卵誘発を行い、10,11,12日目のどれかで卵胞および子宮内膜の厚さの計測を行い、卵胞が20mm以上になったところでhCGを投与して、36時間後(hCGを投与しない場合には、LHサージ後24時間後)に人工授精を行っています。262例の患者さんに対して行った562周期を対象としています。

**この、10-12日目に計測した子宮内膜の厚さを<6mm, 6-9mm, >9mmの3つのグループに分けて分析したところ、妊娠率はそれぞれ、14.8%, 16.3%, 19%で、統計学的有意差がみられなかったというのが結論です。**(この論文では生児出生率については述べられていない)

この研究では、子宮内膜の計測をhCGの投与の少し前に行っているため、実際に人工授精をするタイミングでは、それぞれの患者さんで、もう少し内膜は厚くなっていると予想されます。

妊娠したグループのなかで、最も内膜の薄かったグループは3mm台でした。24例中3例(=12.5%)が妊娠しています(下図**赤字**の部分)。

**これより以前に別のグループが行った同様の研究が3つあり、そのうち1つは今回と同様の結果(子宮内膜の厚さはそれほど影響しない)、2つの研究では、異なった結果(=子宮内膜が厚いほうが妊娠率は高い)という結果だったようです。**

内膜 (mm)	周期数	妊娠数	妊娠率(%)	オッズ比(95% CI)	調整オッズ比(95% CI)
<6 (n = 155)			14.8	0.84 (0.48-1.46)	0.83 (0.47-1.48)
2	2	0			
<b>3</b>	<b>24</b>	<b>3</b>			
4	44	8			
5	85	12			
6-9 (n = 349)			16.3	Reference	Reference
6	114	20			
7	103	20			
8	75	8			
9	57	9			
>9 (n = 58)			19	1.22 (0.61-2.44)	1.13 (0.55-2.35)
10	25	6			
11	18	3			
12	6	1			
>12	9	1			

当院では、胚移植の際のひとつの基準として、子宮内膜8mm以上としています。なかなか内膜が厚くならずいろいろな工夫を重ねることも少なくありません。今回ご紹介した2本の論文は、何万人もの患者さんを対象とした研究ではありません。また、患者さんの背景も、当院とは違っている可能性もあります。ですので、これだけで断定的なことはいえません。

それをふまえてまとめると、「**妊娠するための子宮内膜の厚さには最適な厚さがあるが、内膜がそんなに厚くなくても(最低限の厚さがあれば)、それほど大きな妊娠率の差は生じない**」ということになります。内膜が厚くならず悩んでおられる患者さん、あるいは我々にとっても、ひとつの安心材料となるかもしれません。

妊娠における内膜は、人生における給料と似ていると感じます。「給料は多いほうがいいが、そんなにいっぱいなくても、人生の楽しみに大きな差は生じない」。どうでしょうか？